

南日本新聞に本学卒業生の地域おこし協力隊での活動が掲載されました

南日本新聞に、本学を今春卒業し、鹿児島県肝付町での地域おこし協力隊として活動中の田中綾音さんの記事が、掲載されました。

8月14日に開催される夏越し祭「ナゴシドン」の「つなぎ手」募集について、取材を受けたものです。

(上)南日本新聞 7月8日朝刊掲載

(下)南日本新聞 7月17日朝刊掲載



来月、肝付で伝統祭「ナゴシドン」

手担い舞 来たれ学生

男子大学生を募集している。岸良地区に宿泊し、8月14日の祭りに向けて練習する。

岸良の平田神社に伝わるナゴシドンは、神舞を海岸、同神社で奉納し、五穀豊稔や家内安全を祈願する。近年は担い手が減り、町無形民俗文化財に指定されている独自の神舞8種類のうち、5種類が完全に途絶えている。夏越し祭「ナゴシドン」の担い手となる巫女舞を奉納した。

取り組みは、地域や世代を超えて伝統の神舞を継承し、地域活性化にもつなげるのが狙い。現在残る3種類と巫女舞の奉納を目標とし、神舞ごとに担い手を募る。山の神舞が1人、薙刀舞が1人。いずれも8月8～15日の7泊8日。十二人剣舞の6～12人は同10～15日の5泊6日。最大で14人募る。女性の募集は既に締め切った。

参加費は食料費など1人1万円。宿泊は町基幹集落センター岸良会館を利用し、食事は原則自炊。同会館まで自力で行けることが条件。交通手段がない場合は、町が相談に応じる。専用ホームページ(HP)から申し込めるほか、町HPから申込書をダウンロードして郵送かメール、フaxesで送る。先着順。7月20日締め切り。町産業創出課 0994(67) 4531。(福盛三南美)

2012年に奉納された十二人剣舞 ー肝付町岸良

鹿屋総局・福盛三南美

記者の目

伝統行事を次代につなぐための挑戦といえるのかも知れない。肝付町が、岸良の夏越し祭「ナゴシドン」の神舞の担い手となる男子大学生を全国から募集している。最大1週間岸良に滞在し、神舞の練習のほか、自然体験などを通じ、住民と交流する。最大14人募っており、すでに何人か申し込みがあった。

仕掛け人は、町の地域おこし協力隊員の田中綾音さん(24) 静岡県出身だ。2014年4月から1年間、大学を休学して、若者を農村に派遣する「緑のふるさと協力隊」に参加し、岸良に滞在した。岸良の美しい海や山、人の温かさにほれ込み、今年4月から地域おこし協力隊員として再び活動している。

新しい風

ナゴシドンを見た際、素朴な雰囲気や住民の親しみやすさに魅力を感じていたという。「岸良の人たちは少子高齢化が進む地域をどうにかしたい、とパワフルに動いている。自分も何かできないかと思った」と語る。

600年以上続くときれる伝統行事の神舞を住民や神社関係者以外が担うのは初めて。大学生は4～6日間程度で神舞をマスターし、奉納する予定だ。プレッシャーもあるだろうが、貴重な体験になるはず。住民らはパーベキューなどのおもてなしも計画している。大学生が岸良での滞在を通じて何を感じ、岸良にどんな新しい風を吹かせるか楽しみだ。

2016・7・17

江口漁港

なお、田中さんは、「VOLASリーフレット」や「言語サポーターチラシ」のデザイン、「2016年度国際社会学部の歩き方」の表紙絵を書いてくれました。

今後の活躍が楽しみです！

日時: 2016年07月29日